



書首

源氏物語

竹門
四十二





四
十
五
六

○あはれうせ 花うせはハ騷里の大臣の事也
 弄騷里うせは後の園白誰ともいす
 ○つとまぢり 細内まぢりの事なりし
 ○人の心とては河人心好悪太不常 白良文集
 孟騷里の在世其時ハ何となくありし人の心と
 時よりなり

○うらへの心とてハ孟さうハ其の事なり

あはれうせはハ騷里の大臣の事也
 弄騷里うせは後の園白誰ともいす
 つとまぢり 細内まぢりの事なりし
 人の心とては河人心好悪太不常 白良文集
 孟騷里の在世其時ハ何となくありし人の心と
 時よりなり

○うらへの心とてハ孟さうハ其の事なり
 孟 紅梅さうの事なりし

○うらへの心とてハ孟さうハ其の事なり
 細 巧言令色なり

○うらへの心とてハ孟さうハ其の事なり
 細 細くしは弄或人ハうらへの事なり

○うらへの心とてハ孟さうハ其の事なり
 或按 實の兄オハ其の事なり

○六条院ニハ 或按 浮世の事也 丑くハ其の事なり
 一也

あはれうせはハ騷里の大臣の事也
 弄騷里うせは後の園白誰ともいす
 つとまぢり 細内まぢりの事なりし
 人の心とては河人心好悪太不常 白良文集
 孟騷里の在世其時ハ何となくありし人の心と
 時よりなり

○さくしほくんとし細自然の心也
うしろの心もさくしほくんとし制止を加へず也

○さくしほくんとし花腐又下也

○さくしほくんとし或抄廿房との心也

○六条院の末は花是八董大将の心也十四して元
眼して侍従は任也

○四位の侍従 弄 十四五歳の同はる也是八白官卷
の初よりあり紅梅よりまへ也

さくしほくんとし細自然の心也
うしろの心もさくしほくんとし制止を加へず也
さくしほくんとし花腐又下也
さくしほくんとし或抄廿房との心也
六条院の末は花是八董大将の心也十四して元
眼して侍従は任也
四位の侍従 弄 十四五歳の同はる也是八白官卷
の初よりあり紅梅よりまへ也

○むこしとし 孟董と算よりさくしほくんとし玉うら
心也

むこしとし 孟董と算よりさくしほくんとし玉うら
心也

○此との八の三糸の 弄 此との八玉うらの殿三糸
官ハ廿三官の在也

○さくしほくんとし 巴抄 乃くさくしほくんとし也

此との八の三糸の 弄 此との八玉うらの殿三糸
官ハ廿三官の在也
さくしほくんとし 巴抄 乃くさくしほくんとし也

○ひんくろく 或抄董

○うりひう 河白香也 細白ひと香

○ひめんとと 細世ととら姫君の

○うんのとの 孟壬うの持佛堂の

ひんくろく 弁念誦堂の階也

○ひんくろく 世抄董の比

○ひんくろく 細あまの實は

○宰相の君 或抄董君の上

○ありて 兄の骨 宰相君也 或抄董

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text above.

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text above.

○とらふとつ舟て 或枚 董の琴此音の父也とて
似らふよきとてとて

○大さ此君ハ 弄 柏木ハ 似たりとて 玉ころの詞

○古めいぬ 或枚 草子地也

○草子地ハ 河 催馬 示此殿

○さう心 或枚 一こころの年とて 入
とて 孟年よりころ人のあれは 日とて 入
うとて 入とて 入とて 入とて

○あらの侍従ハ 孟 孟 侍従ハ 駱 駱 里ハ 似たりとて
やうけとて 似たりとて ハ 琴 孟 孟 のハ 駱 駱 里と
ろま あをせとて

○さうとて 弄 孟 とて 入とて

○さうとて のハ 花 言 吹ハ 男 踏 哥ハ ありとて
河 言 吹 壽 弄 祝 言とて 似たりとて 入とて
○竹河とあり 孟ハ 花 同ハ 聲とて 以前の梅とて
此殿とあり 呂の哥とて 云や 或枚 竹川ハ 踏 哥 者
河 竹 川ハ 似たりとて 入とて 花 孟 のハ 似れ
花 孟 のハ 似れとて 入とて 似たりとて

○さうのともて ハ 弄 董 の 詞と
河 酒 頭 本 心と 云心也 親 行 尺 也 入とて 入とて
さうとて 入とて 入とて 入とて

あらの侍従ハ 孟 孟 侍従ハ 駱 駱 里ハ 似たりとて
やうけとて 似たりとて ハ 琴 孟 孟 のハ 駱 駱 里と
ろま あをせとて

さうとて のハ 花 言 吹ハ 男 踏 哥ハ ありとて
河 言 吹 壽 弄 祝 言とて 似たりとて 入とて
○竹河とあり 孟ハ 花 同ハ 聲とて 以前の梅とて
此殿とあり 呂の哥とて 云や 或枚 竹川ハ 踏 哥 者
河 竹 川ハ 似たりとて 入とて 花 孟 のハ 似れ
花 孟 のハ 似れとて 入とて 似たりとて

○あやぐハ細玉うとちひとをびくふと

○何よつとくハ弄 冷泉院のゆいと云

○此うんしちを細兄才しち也中將うんし
巴抄五うの子達れいひまうとくき

○きよいと盃 冷泉ハうひるうんしやうふまうまき
脱履るれいし

あやぐハ細玉うとちひとをびくふと
何よつとくハ弄 冷泉院のゆいと云
此うんしちを細兄才しち也中將うんし
巴抄五うの子達れいひまうとくき
きよいと盃 冷泉ハうひるうんしやうふまうまき
脱履るれいし

○時よちうひて 巴抄 万うの時れ調子と云

○春宮ハいハ 巴抄 春宮ハ何とと云うと

○いハ 弄 夕霧の才一れ女の才よまき
とく玉うの初

時よちうひて 巴抄 万うの時れ調子と云
春宮ハいハ 巴抄 春宮ハ何とと云うと
いハ 弄 夕霧の才一れ女の才よまき
とく玉うの初

○さくらつら乃花の君、栢の細長と若姫の由
又しよりさとの君の多とこよよの
河さくらつらよ衣ハゆくちりてさくらつらん後
のよとれくつらんよ吉今

○いしとるよ或按 冷泉院へまうけんを
とつて

○右さくらつら手つらつら君れつら也

○さのらんさう河 高麗乱聲
花 高麗樂ハ右也競馬さくらつらのさくら
聲ととれハ右さくらつらよとせつらつら

○うのあまう人 或按 右方の廿房れつら
花 栢の木ハ二本さう西のゆまよあつと姫君
の花れ木よさうさうと年比西あつと有けつら
つみよ西の木よさうさうと心也

○何事し 孟 藏人女将心也

○えさふまきされ 弄後このさ也藏人女将の心と
せさやさういし
巴按 心さうてハあつさうさうとて出てやと唯
今立帰さういしあつと也

さくらつら乃花の君、栢の細長と若姫の由
又しよりさとの君の多とこよよの
河さくらつらよ衣ハゆくちりてさくらつらん後
のよとれくつらんよ吉今
いしとるよ或按 冷泉院へまうけんを
とつて
右さくらつら手つらつら君れつら也
さのらんさう河 高麗乱聲
花 高麗樂ハ右也競馬さくらつらのさくら
聲ととれハ右さくらつらよとせつらつら
うのあまう人 或按 右方の廿房れつら
花 栢の木ハ二本さう西のゆまよあつと姫君
の花れ木よさうさうと年比西あつと有けつら
つみよ西の木よさうさうと心也
何事し 孟 藏人女将心也
えさふまきされ 弄後このさ也藏人女将の心と
せさやさういし
巴按 心さうてハあつさうさうとて出てやと唯
今立帰さういしあつと也

さくらつら乃花の君、栢の細長と若姫の由
又しよりさとの君の多とこよよの
河さくらつらよ衣ハゆくちりてさくらつらん後
のよとれくつらんよ吉今
いしとるよ或按 冷泉院へまうけんを
とつて
右さくらつら手つらつら君れつら也
さのらんさう河 高麗乱聲
花 高麗樂ハ右也競馬さくらつらのさくら
聲ととれハ右さくらつらよとせつらつら
うのあまう人 或按 右方の廿房れつら
花 栢の木ハ二本さう西のゆまよあつと姫君
の花れ木よさうさうと年比西あつと有けつら
つみよ西の木よさうさうと心也
何事し 孟 藏人女将心也
えさふまきされ 弄後このさ也藏人女将の心と
せさやさういし
巴按 心さうてハあつさうさうとて出てやと唯
今立帰さういしあつと也

○まきこころ 巴抄 嫡女也

○まきこころ 奇 あり君也 弄也いふまじきこと
まきこころのういふこと也

細 我よりいふまじきことと
或抄 勝負よまきをいふまじきことと

○宰相君 弄 あり君の方人也

○まきこころ 奇 巴抄 世を觀しつる奇を且勝
とまきこころとまきこころの恨もぬことと

○まきこころ 巴抄 まきこころとまきこころと
と助より奇とや

○まきこころ 奇 細 まきこころの風よりまきこころ
まきこころの道理るれ也 枝ありは木あり
我よりまきこころと

○まきこころの或抄 つるまきこころの方人也

○まきこころ 奇 河 古今 枝よりまきこころとまきこころと花
まきこころのちりてし水のありこととまきこころ

○まきこころの奇童の奇也 孟 とまきこころとまきこころと
とまきこころの文字上略也

○たのれき 河 孤公

○まきこころ 花 奇 弄 袖ありやまきこころとまきこころと
河 大まきこころとまきこころの袖もまきこころと
まきこころとまきこころと

○まきこころ 細 まきこころの奇れきこととまきこころの奇れきこと
孟 花とまきこころとまきこころとまきこころの神ありまきこころ
まきこころとまきこころと負方より右のまきこころとまきこころと
まきこころと河のまきこころと

わきまきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

まきこころのまきこころのまきこころ

○うらよ月日 細くして姫君も年々おぼせ

○院よりハ孟 冷泉院より早とまらせ給下と

○昔うらしく弄 弄うらの兄才れ冷泉院の女
細うらしく弄とハ我とびつうくおぼせ
○うらハつよ 弄 冷泉院の昔とよきおぼせ

○うらよよとハ巴城 冷泉院へ姫君のまう
おぼせとせとよき弄うらの心也

月日...
うらよ...
おぼせ...
弄うら...
冷泉院...
姫君...
巴城...
うらよ...
おぼせ...
弄うら...
冷泉院...
姫君...
巴城...
うらよ...
おぼせ...

○母の方 弄 雲舟雁とせうら也
花藏人女将母雲舟雁ハ弄うらの尚侍のこはれ
うらよ...
弄 雲舟雁の文れ弄うらの
うら也

○やんのおまひ 河人のおまれ心や...
おぼせ...
細子とよ道ハ誰も同うら

河人...
おぼせ...
弄うら...
雲舟雁...
尚侍...
おぼせ...
弄うら...
雲舟雁...
文れ...
弄うら...
おぼせ...
細子...
道ハ...
誰も...
同うら

○ころも 細玉ころの心也

○ころも 弄玉ころは後中君の刊

○世なりともあり 巴按 姫君の冷泉院まわり
はひそ後中君と女将はいつくこと

○世のころも 孟人の目より井よりころあぢ
みし

○世のころも 或按 草子地也

○さーわくせてハ或按 玉ころの心也 冷泉院(雅書
のまのころもさーわくせてハと也

○わくころ 巴按 浅也

○あつころは 弄藏人女将也
細ころの君はハちひころころ

○かのころも 或按 其ころは後中君の刊
也

○侍従のころも 弄藏人女将玉ころのころ
は後中曹司よりころ

あつころは 弄藏人女将也
細ころの君はハちひころころ
かのころも 或按 其ころは後中君の刊
也
さーわくせてハ 或按 玉ころの心也
冷泉院(雅書)のまのころも
さーわくせてハと也
わくころ 巴按 浅也
あつころは 弄藏人女将也
細ころの君はハちひころころ
かのころも 或按 其ころは後中君の刊
也
侍従のころも 弄藏人女将玉ころのころ
は後中曹司よりころ

あつころは 弄藏人女将也
細ころの君はハちひころころ
かのころも 或按 其ころは後中君の刊
也
さーわくせてハ 或按 玉ころの心也
冷泉院(雅書)のまのころも
さーわくせてハと也
わくころ 巴按 浅也
あつころは 弄藏人女将也
細ころの君はハちひころころ
かのころも 或按 其ころは後中君の刊
也
侍従のころも 弄藏人女将玉ころのころ
は後中曹司よりころ

○うしろひとやろ 河 奪取
孟董の文と存侍従の文と蔵人女將の
うしろひとや也

○そこのうしろひ 或按 董の文は孟也あつた
うしろひとや也

○うしろひとや 奇董也 孟もうしろひとや
うしろひとや也

○うしろひとや 細 女將の心也

○うしろひとや 或按 母君のうしろひとや
うしろひとや也

○中將のうしろひ 弄 姫君の女房也 蔵人女將の文を
うしろひとや也

○うしろひとや 弄 董の文とりちて玉うしろひと
侍従のうしろひと蔵人女將のうしろひと心也

○うしろひとや 弄 物を河うしろひと物ハ物とや
うしろひとや也

○うしろひとや 孟 中立の女也 孟もうしろひとや
或按 女將のうしろひ也

○うしろひとや 弄 蔵人女將の姫君とやとや也

○うしろひとや 或按 侍従の君れ 孟の 見證 せ 夕暮
のうしろひとや也

うしろひとや 孟 中立の女也 孟もうしろひとや也
うしろひとや 弄 蔵人女將の姫君とやとや也
うしろひとや 或按 侍従の君れ 孟の 見證 せ 夕暮
のうしろひとや也

うしろひとや 孟 中立の女也 孟もうしろひとや也
うしろひとや 弄 蔵人女將の姫君とやとや也
うしろひとや 或按 侍従の君れ 孟の 見證 せ 夕暮
のうしろひとや也

○細 紅梅の白宮と請ひ

○細 紅梅大臣の世也

○細 白宮世と云ふ所の世也

○細 中納言の或狹 董も紅梅右大臣大智食も未
終く及し

○細 玉方のも 弄 紅梅大臣同方也

○細 玉方のの殿 東と云ふ所の隣也

○細 玉方の 弄 舞里の大納言と云ふ所の世と云ふ
の世の世なり

○細 玉方の世 細 金兵衛官の世也 其後真奈
柱の君は紅梅大臣通ひと云ふ所の世と云ふ所の
世又此の世も物と云ふ所の世と云ふ所の世
世の世の世如世と云ふ所の世と云ふ所の世

○細 玉方の世 或狹 楨柱君の世也

○細 玉方の世 細 夕霧の息藏人女将也

○細 玉方の世 巴楯 玉方の世也

○細 玉方の世 弄 舞里の大納言と云ふ所の世と云ふ
の世の世なり

○細 玉方の世 細 金兵衛官の世也 其後真奈
柱の君は紅梅大臣通ひと云ふ所の世と云ふ所の
世又此の世も物と云ふ所の世と云ふ所の世
世の世の世如世と云ふ所の世と云ふ所の世



